

俳句創作指導における実践と提案

—— 取り合わせの方法を用いて ——

藤 田 万喜子

一、はじめに

言語の教育と言われる国語科の目標は、小学校においては「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」となっている。この中で言語感覚という点に注目すると、中学校の国語科の目標においては「言語感覚を豊かにし」となっている。国語科教育において、言語感覚を磨くことは欠かすことができないと言えよう。この言語感覚を磨く指導の一方法として、「岐阜聖徳学園大学国語国文」第24号で「言語感覚を磨く俳句の指導―埋め字の方法を用いて―」の実践研究を報告したが、今回は、取り合わせの方法を用いた俳句創作指導の実践と提案を行いたい。

二、実践過程と実践対象

第一次 取り合わせの方法を用いて短文と俳句を作らせる。

目標 ・ 提示した語句を組み合わせて俳句を作り、俳句的表現を身につける。

俳句のような短い詩では、素材としての「物」（言葉）が大きな働きを持っている。使った素材によって内容がすっかり変わってしまうこともあるからである。俳句創作における取り合わせの方法とは、「無関係な物と物との間に関係を見出し、一句を組み立てる」技法である。言葉を提示し、その組み合わせによって世界を作り出す練習は俳句的表現を身につけさせるのに効果的な方法であろう。今回の実践で提示した語句は、「街頭 風 売る 風車」である。

第二次 第一次で示した語句のもととなった俳句を示し、鑑賞さ

せる。

目標 ・鑑賞を通して、俳句表現の巧みさを理解し、言葉と言葉の結びつきがもたらす世界を味わう。

対象 実践の対象としたのは、筆者が機会を得て俳句指導に関わることになった高校生と大学生（以下初心者とする）、カルチャーの受講生（年齢六〇・七〇代、俳句歴一〇年〜一五年の方。以下熟練者とする）である。

三、実践 第一次

課題1 次の語句をすべて使って短文を作りなさい。

課題2 また、語句をすべて使って俳句を作りましょう。

街角
風
売る
風車

留意点 ・語句の提示は、縦に並べると文につながりやすいので、

横に並べる。

・俳句は有季定型、風車が季語で、季節は春であること
を知らせる。

課題1（街頭・風・売る・風車を使った短文）の結果と考察

1 街頭の風¹に回して風車²を売る。

2 少年が風吹く街頭で風車³を売る。

3 *冷たい風の吹く街頭で貧しい子どもが風車⁴を売る。

4 街頭の風を上手にうけて風車⁵を売っていた。

5 街頭を吹く風も付けて風車⁶を売る。

6 強い風がふく中、街頭で風車⁷を売る一人の少女がいました。

7 色鮮やかに風車⁸を売っている店。

8 *風のない街頭で風車⁹を売る人を見る。

9 風車を売る街頭につむじ風吹く。

10 *街頭で風車を売ると風が吹いてきて風車が回った。

11 街頭で風車を売る屋台がいて、風に吹かれくるくると回っていた。

12 風が強くなり街頭の風車は売れ難くなった。

13 *街頭で風車を売っていたが、ちょっと眼を離れたすきに風¹³に持って行かれてしまった。

- 14 街頭に出て少女の売る風車が風に舞う。
- 15 風の吹く街頭で売る風車いきおいよくまわる。
- 16 * 街頭で売っている風車が風で回っている。
- 17 街頭に売りたいる数多の風車が秋風にゆれている。
- 18 風が無く街頭の風車売れもせず。
- 19 街頭に売られている風車、風が無く困っている。
- 20 街頭で売られている風車が風に吹かれてまわっている。
- 21 * 街頭で売られていた風車が風で回った。
- 22 * 街頭で売られていた風車が風でまわっていた。
- 23 * 街頭で風車が夏風で回りながら売られている。
- 24 * 風の吹く街頭で風車が売られている。
- 25 * 街頭で売られている風車は今日も夏の風で揺れている。
- 26 風でいきおいよく廻る売り物の風車を街頭で買う。
- 27 街頭に並べ売る数多の風車が秋風にそよそよとゆらいでいる。
- 28 街頭のそよ風が風車の売り上手に拍車をかけた。
- 29 * そよ風の街頭に風車売りの姿有り。
- 30 * 風車を持った風の子が街頭の油売りの前を通り過ぎた。
- 31 * 街頭で壊れた扇風機を売っている店の主人がたまたまふいた風
でまわったプロペラを見て、客に風車だと言いはる。
- 32 * 街頭は小物を売る所でそこから見える風車が風で回っている。

33 * 露店が並ぶ街頭で風を売る風車屋さん。

34 * 風車が街頭で風を売っているようだ。 (*印は初心者文)

三四の短文のうち、「売る」を「風車」と結びつけた文が三二例で、これを熟練者・初心者の割合で調べると、熟練者は全員が、初心者は八七%が「風車」を「売る」としていた。提示した四つの語句のうち「売る」という動詞に着目して文を作るとなると「何を売る」という関係が成り立ち、その何に適するのはこの場合「風車」であるから当然のことである。

ところが、「売る」を「風」と結びつけた文が二例あった。ともに初心者の作である。熟練者の中には「売る」を「風車」と結びつけているものの、「吹く風も付けて」と風とも結びつけているものが一例あった。33は、提示された語句をそのまま順に並べて短文を作ったということであった。24も「風」の横に「売る」があったので繋げたとのことであった。

課題1 (街頭・風・売る・風車を使った作句)の結果と考察

- 1 * 街頭で売る風車風まわす a || 売る (売っている) 風車
- 2 * 街頭で売る風車奪う風 a
- 3 風招く風車売られる街頭で b || 風車売られ

- 4 街頭で売る風車風さそう a
- 5 風車売る街頭の風やわら c || 風車売る
- 6 街頭に風車売る良き風か c
- 7 風車売る街頭に風の道 c
- 8 風の中街頭に立ち風車売る c
- 9 街頭で風吹く中売る風車 a
- 10 風車売りし街頭風吹きて d || 風車売りし
- 11 風車売る街頭に風が吹く c
- 12 * 街頭で風車売る風が吹く c
- 13 * 風車売る街頭で風が吹く c
- 14 風車売る街頭に風立ちぬ c
- 15 * 街頭で風車売りし風吹かず d
- 16 * 風吹かぬ街頭で売る風車 a
- 17 * 風吹かぬ街頭で売るは風車 e || 売るは風車
- 18 風なびく街頭で売る風車 a
- 19 風が舞う街頭に売っている風車 a
- 20 * 風車風吹く街頭売りにくる a
- 21 * 風車風受け売られ街頭に b
- 22 * 夏の風街頭で売る風車 a
- 23 * 街頭で風車売り風感ず f || 風車売り

- 24 * 街頭で売られし風の風車 b
- 25 街頭で売る風車風にのり a
- 26 風車街頭の風合せ売る a・g || 風を売る
- 27 街頭の風車売り風も売り f・g
- 28 * 街頭で風と売られた風車 b・g
- 29 風のせて風車売る街頭に c・g
- 30 街頭に風売るがごと風車 g
- 31 * 街頭で風売るような風車 g
- 32 * 風車街頭の風売りたるや g
- 33 * 風車街頭筋で風を売る g
- 34 * 風車街頭で一人風を売る g (*印は初心者の句)
- 三四の作品の中で、「売る」が何と繋げられているかについて、
 先ず考察してみたい。調べてみると、「売る」に「風車」を結びつ
 けた作品、「売る」に「風」を結びつけた作品、「売る」に「風車」
 と「風」の両方を結びつけた作品と大きく分けることができる。
 「売る」に「風車」を結びつけた作品は二五句あり、
 a || 売る (売っている) 風車のように風車を限定した形・9句
 b || 風車売られのように「が」を略した形・3句
 c || 風車売るのように「を」を略した形・8句

d || 風車売りしのように「を」を略した形

・ 2句

e || 売るは風車の形

・ 1句

f || 風車売りのように一つにまとめた形

・ 2句

のようになっている。

「売る」に「風」を結びつけた作品は五句あり、

g || 「風を売る」の形

・ 2句

「風売るがごと」「風売るような」のような比喻の形

・ 2句

「風売りたるや」の形

・ 1句

となっている。

最後の「売る」に「風車」と「風」の両方を結びつけた作品は四

句あり、

「合せ」や「のせて」のように動詞を補った形

・ 2句

「も」や「と」のように助詞をを補った形

・ 2句

である。

短文との関係

「売る」に「風車」を結びつけた作品は二五句で、七三%にあたる。先の短文では八七%であったから、約一割強が「売る」に「風」を結びつけた作品を作ったことになる。これらは、「風車」を「売る」という眼前にある情景(事実)に、目には見えない「風」との

関係を掴み、それを表現しようとしたもの(詩的把握)で、これが今回の実践のねらいである取り合わせの方法である。「売る」に「風」を結びつけた俳句は九句。先の短文では二例であったわけで、俳句を作るに当たって「風」「売る」の関係を意識した者が七人いたことになる。この変動は何を示すのであろうか。

対象となる俳句番号26、34の作者の短文を調べ対比すると、

5街頭を吹く風も付けて風車を売る。 ↓ 26 風車街頭の風合せ売る

19街頭で売っている風車が風で

困っている。 ↓ 27 街頭の風車売り風も売り

16 * 街頭で売っている風車が風で

回っている。 ↓ 28 * 街頭で風と売られた風車

7 色鮮やかに風車を売っている店。 ↓ 29 風をせて風車売る街頭に

27 街頭に並べ売る数多の風車が秋

風にそよそよとゆらいでいる。 ↓ 30 街頭に風売るがごと風車

34 * 風車が街頭で風を売っている

ようだ。 ↓ 31 * 街頭で風売るような風車

21 * 街頭で売られていた風車が風

で回った。 ↓ 32 * 風車街頭の風売りたるや

33 * 露店が並ぶ街頭で風を売る風

車屋さん。 ↓ 33 * 風車街頭筋で風を売る

29 *そよ風の街頭に風車売りの姿

有り。

↓34 *風車街頭で一人風を売る

であった。このうち、短文で「風」と「売る」結びつけていたものは5・33・34の三例で、5「風も付けて」↓26「風合せ」、34「風を売っているようだ」↓31「風売るような」、33「風を売る」↓33

「風を売る」のように、短文の発想を俳句に仕立てたと考えられ、興味深い結果となった。残りの六句を熟練者・初心者の数でみると、俳句を作る段階で「風」と「売る」を結びつけたものは、熟練者三人、初心者三人で、同数という結果であった。これだけで結論づけするのは難しいが、発想には俳句表現に慣れ親しんでいる度合いは関係がないと推察される。

しかしながら、熟練者には、7「色鮮やかに」↓29「風のせて」や27「ゆらいでいる」↓30「風売るがごと」のように短文の語句を言い換えて表現したものがみられた。また、熟練者の中には「風車」と「売る」を取り合わせつつも、3「風招く」・4「風さそう」や5「風やわら」・6「良き風か」・7「風の道」のように風と関係づけようとしたものや風の質を表そうとしたものがあった。これらは、常識的ならえ方から一步抜け出して詩的な価値付けをしようとしたものと判断できる。すべて熟練者の作品である。

実践に提示した語句について

ここで、実践に提示した語句について触れておきたい。

この実践は、「文芸教育」(60号 一九九二年五月発行)の「誌上シンポジウム提案 俳句を授業する」(西郷竹彦)及びその提案に対する意見についての記事(注)を知ったことがきっかけであった。先ほだから「売る」「風」にこだわっているのはこのことに因る。

西郷氏が授業で用いられた俳句は三好達治の「街頭の風を売るなり風車」で、「街頭 風 売る 風車」の四つ語句を使って短文をつづらせ、その後、達治の句を示し鑑賞させるという授業であった。筆者はこの四つ語句を使って創作指導に活用できないかと考えたのである。

筆者が今回の実践を終えてまとめるに当たって三好達治の作品について調べたところ、西郷氏が実践で示された達治の作品は「街角の風を売るなり風車」の句形であったことが分かった(注)。

四、「街角の風を売るなり風車」の表現の巧みさ

三好達治は詩人であって詩が本業であるが、短歌も俳句も作った。達治と俳句との出合いは大阪府立市岡中学時代、十四歳であった。特に師系はなく、近所に俳句を作る人がいて、その人の影響で俳句を作り始めた。毎月俳誌「ホトトギス」も読んでいた。三高時代に

最も作句した。詩人として活躍するようになった後も、俳句の評論、批評、鑑賞等を執筆し、俳句とは縁を切ることにはなかった。

『定本三好達治全詩集』（筑摩書房 昭三七年三月刊）に「八の路上百句」が、『三好達治詩全集Ⅱ』（筑摩書房 昭四五年八月刊）に「路上百句」「俳句拾遺」が、収められている。また、句集『柿の花』（筑摩書房 昭五一年六月刊）がある。

「街角の風を売るなり風車」の句は、「路上百句」、『柿の花』の「路上」に収められている。

表現の巧みさ

街角の風を売るなり風車 三好達治

季語は「風車」で春。街角の風車売りの様子を風車を売っていると言わずに、「風を売るなり」と言い止めた。これがこの句の眼目である。風車は風がないとつまらないもの。だから、売るなら、風の吹いている日がいい。からからと回り出すと人目をひいてよく売れるからである。「風を売るなり」という把握は発見である。風吹く中で、からからと回る風車を売っているという眼前の景から、目に見えない「風」に価値を持たせている。「風を売る」というと春風の心地よさまで伝わってくる。

この句の巧みさについて、西郷竹彦、浮橋康彦、藤井圀彦の各氏

は「文芸教育」（60号 一九九二年五月発行）の中で次のように指摘する。

・西郷竹彦氏は、「この句は、風が吹くからこそ風車が売れる、だからこそ、まるで〈風を売る〉ように思われる」という現実をふまえながら、しかも〈風を売る〉という現実をこえたところに成立しているのです。」

・浮橋康彦氏は、『「街頭の、とある屋台店は（事実としては風車を売る店だが、風車をでなくて）風そのものを売っているよ』という、見立てのおもしろさに気づかせることが大切なのではないか。（略）『風を売る』表現は、『風によって売れる』という理屈ではなくて、端的に新鮮な見立ての美しさにとらえたい。」

・藤井圀彦氏は、「この句は『風を売る』の把握のしかたもさることながら、下五に季語としての『風車』を置いたところに、文芸性が一挙に高められたとみられる。」「上五中七での切れが大きいのである。したがって、『風車』のイメージと、上五中七の響き合いによって衝撃的に文芸性が高められるのである。」

五、実践 第二次

第二次では、第一次で取り上げた「街頭 風 売る 風車」の語句のものと句を明らかにし、鑑賞を行った。しかし、達治の作品が

「街角の風を売るなり風車」であったことが分かったので、ここでは流れを紹介するにとどめたい。(街頭は街角に訂正)

- 1、街角、風、売る、風車の四語を全部使って作らせた短文のプリントを提示する。
- 2、1の中で、語順や文型の共通点をさがす。
- 3、「売る」に着目し、言葉の繋げ方が「風車」を「売る」であるものが多いことを確認する。
- 4、「街角の風を売るなり風車 三好達治」と板書し、音読する。もとの句が詩人である三好達治のものであることを知らせ、達治について簡単な紹介をする。
- 5、この句について「この句はどうか。」「不自然に思うか。」と問う。
- 6、「なるほどと共感」し、「なぜ不自然に思わないか」について話し合う。
- 7、この句に句点「。」を付けるとするとどこか。(街角の風を売るなり)。「風車」となって「売るなり」で大きく切れていることを確認する。
- 8、「風を売る」という把握が作者の発見で、見えない物を見たことがこの句の巧みさであることを確認する。

9、作者の発見が言葉と言葉の結びつきによって「さもありなん」という世界を作り出したことを確認する。

六、まとめと提案

俳句は有季一七音、一つ一つの語彙に敏感にならざるを得ない文学(文芸)である。今回の実践の中心は、語句を提示し、それらを全部用いて短文を作り、その短文をもとに作句するという取り合わせの方法であった。五・七・五(一七音)の俳句にするためには短文(散文)を篩いに掛けなければならぬ。連想される言葉を省略したり、発想を転換させて言葉の繋ぎ方を工夫したりするのである。短文作りは創作への手がかりでもあり、創作への出発点でもある。

今回は四語を提示したが、その語句を

- ・季語を含む三つの「物」の取り合わせ……(例) 空・夢・風の糸
- ・留意点 生徒の共感しやすい語句を選ぶこと。
- ・二つの「物」の取り合わせ……季物と他の物を自分で設定するように減らしてゆく実作の練習過程を提案したい。

俳句は、例えば一句作ったとする、その俳句で用いられている素材(言葉)が相互に響き合って、他の素材(言葉)に置き換えることが出来ないのを理想としている。このような関係の言葉の結びつ

きを実感することが創作指導では大切であると考える。

(注1) 西郷竹彦氏は『俳句の美学』(上・下巻 一九九一年 黎明書房刊)で提起された仮説に基づき、「いわゆる文人俳句といわれるものなから、詩人三好達治の句 街頭の風を売るなり風車 をとりあげ、私なりの授業案を具体的に提案して、読者のご批判、ご教示を得たいと思います。」と述べて、俳句の授業を提示された。それに対し、「提案に対する意見」を浮橋康彦、深川明子、藤井圀彦、山元隆春の各氏が執筆している。

(注2) 先に示した「文芸教育」(60号 一九九二年五月発行)の五ページから三二ページまでが「誌上シンポジウム提案 俳句を授業する」に関係するのであるが、すべて「街角の風を売るなり風車」となっている。ところが、原典では「街角」となっているので、編集部にお問い合わせたところ次のような回答を得た。当時、原典に当たることが出来ず、そのまま発行してしまった。つまり、誤植であるとのことであった。そこで、執筆者の一人である藤井圀彦氏にも当時のことをお聞きしてみた。氏によると、随分昔のこと

はあるが、当時の原稿依頼のままに執筆されたとのことであった。藤井氏も原典に当たっておられず、依頼に「街頭」とあったと推測されることであつた。

(注3) 「文芸教育」(60号 一九九二年五月発行)の『名句の美学』は理解したが授業には問題がある」において藤井圀彦氏が整理され、想定された指導過程を参考に筆者が組み立てたものである。

参考文献

『俳句シリーズ14人と作品 文人の俳句』(村山故郷著 桜楓社 昭四九年六月刊)

『名句の美学』上(西郷竹彦著 黎明書房 一九九一年一月刊)

『俳句創作鑑賞ハンドブック』(學燈社 一九九〇年二月刊)

『俳句辞典 近代』(松井利彦編 おうふう 昭五七年五月刊)